

研究者紹介

吉田 真悟

(よしだ しんご)

農林水産政策研究所研究員
農業・農村領域

●専門分野

農業経営学(経営戦略論, アントレプレナーシップ論), 都市農業研究

●略歴

群馬県出身。2016年日本学術振興会特別研究員(DC1)。同年Newcastle University(英国)客員研究員。2019年3月東京大学博士課程修了(農学)。2019年4月より現職。



佐藤 彩生

(さとう さき)

農林水産政策研究所研究員
農業・農村領域

●専門分野

農業経済学, 農泊, グリーン・ツーリズム, 観光, 地域経済

●略歴

神奈川県出身。2014年3月東京農工大学大学院農学府修士課程修了(農学)。2014年4月株式会社農林中金総合研究所入社。2019年4月より現職(出向)。



●これまでの研究はどのようなものですか？

学生時代は、「農業経営の持続可能性の促進」を目的として様々な課題に取り組みました。特に、都市的地域に着目して、「農家の土地利用選択」「担い手育成」「多角化戦略の採用要因と経営成果」をテーマとして、アンケート調査及びフィールド調査に基づいて定量・定性両側面から研究してきました。

博士課程で取り組んだ農業経営の多角化に関して、日本の都市的地域では高度経済成長期以降の都市のスプロールの拡大の結果、多くの農業経営が都市に内包されています。それに伴い、彼らは消費地との近接性を活かした直売や観光農園、農業体験農園といった付加価値の大きな事業への多角化を図りました。一方で、この多角化戦略は農家が都市農業の多様な機能(良好な景観、農業理解の醸成、農業体験・学習、交流の場など)を発揮し、地域社会との信頼関係を構築する役割も果たしています。私は以上のような多角化戦略の経済・社会的な役割に着目し、戦略が農業経営の持続可能性に貢献するための諸条件の解明に取り組みました。アンケート調査の結果、多角化戦略の成功に起業家精神や経営管理能力、人的ネットワークが果たす役割が示されました。

以上の研究と並行して、東京近郊の農業経営に対する現地調査を実施し、実際の多角化の遂行にとって後継者の積極的な経営参加や農外就業経験が重要であることも明らかになりました。

●今後の抱負はなんですか？

今後も「農業経営の持続可能性」を問題意識として様々な課題に挑戦していきます。その際、農業に関わる多様なステークホルダーへの深い理解が不可欠になると考えており、多くの現場から学び、行政と農業現場の両方に貢献する研究を実現したいです。また、研究成果を広く社会に理解していただけるような情報発信力を備えた研究者を目指します。

●これまでの研究はどのようなものですか？

前職では、「地域金融機関による観光振興の取組」及び「農泊」に関する研究を行ってきました。

地方創生政策の始動に伴い、地域金融機関が地方創生の取組の一環として地域の観光振興に積極的に取り組んでいます。こうした地域金融機関を対象に調査を行い、地域金融機関による観光活性化ファンド支援や観光まちづくりへの参画、並びに創意工夫に富んだ取組の事例を整理し、地域金融機関の観光振興における役割や参画意義、機能について考察を行いました。国内の観光市場にインバウンドの追い風が吹くなか、その経済効果を地域に波及させる上で、地域金融機関の観光振興への関わりは今後重要性を増すものと考えられます。

また農林水産省の地域振興策の一つである「農泊」に関する研究については、農泊推進事業に採択された地域を対象に調査を行い、取組の経緯や取組内容を紹介してきました。2017年度の事業開始以降、400を超える地域が農泊地域として採択され、様々な課題を抱えながらもこれに懸命に取り組んでいます。農泊の推進主体の体制整備や誘客、地域資源の磨き上げ等課題は多いですが、農泊をきっかけとして着実に地域での新しい動きが生まれており、地域活性化の有効な手立てとしての期待が高まっています。

●今後の抱負はなんですか？

これまでに行ってきた観光や農泊に関する研究を生かしつつ、専門性のある研究者との意見交換を行いながら、より精緻な研究を行っていきたいと考えています。また全国の農山村における調査を積み重ねていくことで、政策がどのように影響し、現場ではどのようなことが起きているのかを身を持って感じ、得た知見を形にすることで全国の農山村の活性化に役立つ研究論文を発信したいと思います。